

第12回遠野市史編さん委員会 会議録

日 時	令和2年11月18日（水）13：20～14：30	
場 所	遠野市立図書館 視聴覚ホール	
出席委員数	9人中8人出席	
出席委員	岩崎真幸、大橋進、兼平賢治、熊谷常正、今野日出晴、菅原伴耕、藤田俊雄、山影勝美	
欠席委員	斉藤利男	
事務局	石田久男	文化振興担当部長
	宮田秀一	市史編さん室長
	前川さおり	市史編さん室次長
	小島芳枝	市史編さん室主任
	阿部信代	〃
	菅原聡	〃

（進行：前川次長）

1 開会

2 委員長挨拶

3 報告

事務局より資料にもとづき報告。各委員からそれぞれ担当分野の報告。質疑なし。

4 協議（進行：大橋委員長）

(1) 遠野市史「原始・古代・中世」資料編の基本構想の変更について

- ◎ 提案どおり「原始・古代・中世」の資料編を、「考古」と「古代・中世」の2分冊とすることで決定。
 - ・ 変更理由の大きなところは、縦書きと横書きの問題。部会の意見を尊重する。

(2) 資料編の体裁について

- ◎ 上製本、函（ケース）付き、表紙カバーなし、とすることで決定。
 - ・ 予算の枠組みは？
 - 現段階では、どれくらいかかりそうか見積もる意味で、枠は外して考えたい。
 - ・ 読みやすいのは並製本だが、保管したときにもつかどうか考える必要がある。
 - ・ 基本データである資料情報を守るということから、上製本がよい。
 - ・ 表紙はクロスでなく紙でよい。
 - ・ 図書館に配架するときは、函も表紙カバーも取られてしまうが。
 - ・ 長く保管するには、函があったほうが傷まない。
 - ・ 地図やCD（DVD）を付録として付けることを考えると、函入りがよい。
 - ・ 函は欲しい人のみ、いくらかプラスの額で付けるというところもある。
 - ・ 函を付けるなら表紙カバーは不要。
 - ・ 函は簡略なものでよい。表紙のデザインはしっかりと。

(3) 市史の発行部数について

◎ 提案どおり、資料編 300部、通史編 400部、民俗編 400部とすることで決定。

- ・ 販売価格は想定しているか？

→ 現時点では決めていないが、3,000円から5,000円、6,000円くらいの幅になるかと考える。

- ・ 予約すれば少し安くするという方法もある。

- ・ 寄贈分で、資料編は 150、通史編は 200という50部の差は何か？

→ 通史編は交流市町村への送付分を見込んだ。

- ・ 在庫は、ふるさと納税の返礼品にするのもよい。

- ・ 売り切れた後は、増刷するよりデジタルで公開することを検討しては。写真の許可を取る際、デジタル公開も想定して許可をとる必要がある。

(4) その他

部会の会議や調査活動について、新型コロナの関係で自治体によって対応が違うので、どの範囲で実施するかは、市側で判断を示してほしい。

→ フェーズが変わるごとに市でも基準を決めているので、そのように対応する。

5 閉会